



# つながり

～やさしく かしく たくましく～

第3号

令和5年7月19日発行



山口大学教育学部附属幼稚園

## コロナ前の生活に戻しながらの1学期を振り返る

副園長 高田 和 宜

新しい職員や子どもたちを迎えてスタートした園生活の学期が終わろうとしています。新型コロナウイルス感染症の5類移行にともない、コロナ前にしていた活動や行事など再開することができ、充実した園生活が送れたことをうれしく思います。前にしていたことを単に戻すだけでなく、「子どもにとっての良さは何か」や運営の負担軽減などを考慮して計画の段階からコロナ禍で工夫してきたことも活かすように努めています。先日の幼稚園まつりでは、在園児の家族のみと参加者を限定いたしました。人数が事前に分かっていたことで、賞品や飲食のロスがなく、運営や会計の労力もずいぶん減らすことができました。保護者の皆さんのシフト等も「できる人ができるところで協力」が徹底され、集まることや打ち合わせも最小限で行えたことに感心させられました。幼稚園まつり実行委員、PTA 執行部や保護者の皆様の様々な配慮やご協力に感謝申し上げます。おかげで子どもたちも暑さの中、混雑や待ち時間などで疲れることなく楽しめとてもスマートで楽しい行事となりました。

附属幼稚園の園生活の特徴の一つに、保護者があるままの園生活に触れられることがあげられます。親子遠足や保育参加、ピーマン Jr.の会、幼稚園まつりなどでは、保護者の皆さんが参加されることで、園生活の楽しさやそこでの子どもたちの育ちが感じられるようにと進めています。これは大学の授業で保育参加に入る学生も同様です。普段の生活そのままを目にするので、様々な場面を見ることとなります。そこで大切にしたい子どもの姿の見方を学生に、以下のように伝えています。①「子どもの姿を肯定的にとらえること」②「遊びや活動の意味を理解すること」③「子どもの姿から発達を捉えること」④「集団と個の関係を捉えること」保護者や学生が普段通りの園生活に参加することは、子どもたちが保護者の皆さんや学生とのかわりを楽しむことで遊びや活動への意欲があがり、人とのかわりの良さや親しみなど体験を通して感じることは、こころの育ちを後押しすることにつながります。2学期から教育実習が始まります。学生と子どもたちとの温かいかわりも増えることでしょう。2学期以降もご協力よろしくお願いいたします。



木陰で昼食した親子遠足



保育参加後はざっくばらんに  
ミーティング



保育アシスタントに見守  
られ星組カレー作り